

## ユーロ/ドル相場の当面のポイント

### はじめに

ユーロ/ドルは2000年10月に導入来安値となる0.82300ドルを記録するも、その後は上昇トレンドを形成。2008年に1.60380ドルの導入来高値を見た後は、概ね1.2ドルから1.5ドルでレンジを形成している(図1)。もっとも、その幅は3000ポイントを越える上、現在の立ち位置はちょうど中間地点にあたる事から、短中期ではレンジ内で発生したトレンドを、長期的にはもみ合いを上下どちらにブレイクするかを読むことが、ポイントとなる。

昨年末に2008年と2011年の高値を結ぶレジスタンスライン(図1、緑線。1月時点では1.39075ドル)を前に失速したことで、上値模索の機運が一旦後退した。とはいえ現在の相場は、2012年と2013年の安値を結ぶサポートライン(同、青線。同、1.31108ドル)と、前述のレジスタンスライン(緑線)との間に位置しており、上下どちらかの突破が待たれる。

### 当面の予想

今後の相場を予測する前に、まずは、現在の立ち位置を見てゆきたい。

足下の相場を見ると、18カ月移動平均線(同、赤線)が上向きを維持している以外にも、以下の材

図1:ユーロ/ドル相場(月足、1/24終了時点)



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

料により、相場は依然としてレジスタンスライン突破を試す方向に向かっていると考えられる。

#### (1) サポートラインや長期の移動平均線

冒頭でレジスタンスラインに阻まれて失速したと書いたが、現状は月足上のレンジ下限を目指す動きとは言い難い。その理由として、日足の200日移動平均線が上向きである事と、2012年安値を起点とするサポートラインの存在が挙げられる。

##### a) 200日移動平均線

図2を見ると、足下の200日線は上向きを維持している上、200日線をベースにしたエンベロップを見ると、かい離幅1.5%レベルが、反発か一段安か

線より上にローソク足が位置している現状から、これらを維持している間は上昇トレンドが継続していると考えられる。

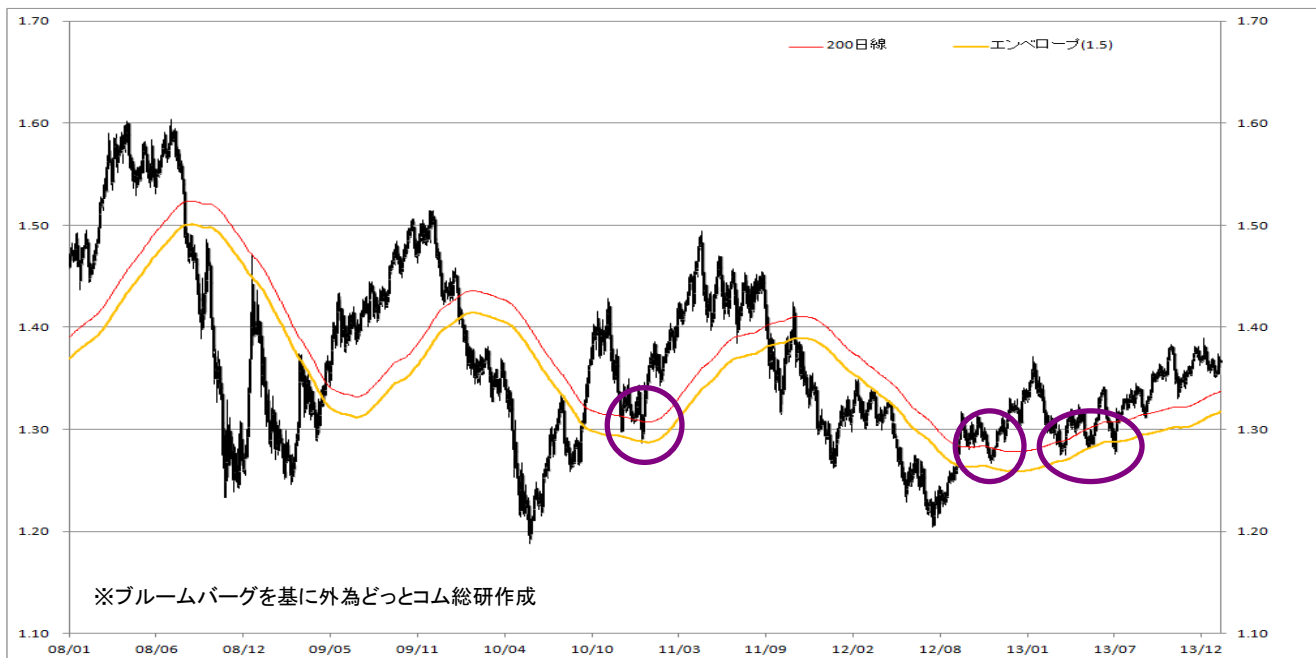
##### b) 2012年を起点とするサポートライン

日足(図3)を見ると、今月に入り2013年7月と11月の安値を結ぶサポートライン(ラインA)を下抜けたが、依然として2012年7月と2013年7月の安値を結ぶサポートライン(ラインB。1/29終了時点では1.31708ドルに位置)を割り込むには至っていない。少なくとも、このラインが機能している間は、月足上でのレンジ下限からの上昇局面が続いていると考えられる。

#### (2) 日柄面

日柄面の解説に入る前に、1999年以降の月足の

図2: ユーロ/ドル 日足200日線(1/29終了時点)



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

流れを見ておきたい。安値から安値を基にカウントすると、最短が19カ月、最長が25カ月、それらを平均すると約20カ月であった(以下、「20カ月サイクル」と呼ぶ)。現在の20カ月サイクルは、2012年7月安値(1.20430ドル)を起点として、既に18カ月を経過(図4)経過している。過去のサイクルの長さを当てはめると、ボトムを付けるタイミングとして、今年3月(20カ月)、6月(23カ月)、8月(25カ月)などが挙げられる。

目先は、足下の20カ月サイクルがどのような形で底打ちするか注目したい。仮に20カ月ちょうどでサイクルボトムが到達すると仮定すると、応答月は今年3月となる。現時点ではよほどの下落とならない限り、強気サイクルである「ライト・トランスレーション(図5)」が出現する公算が大きい。そし

て、サイクルのピークが中心地点よりも左側となる「レフト・トランスレーション(図5、弱気型サイクル)」の出現や、始点よりも終点の方が安い位置で引ける、などのトレンドの転換を示すサインが出るまで、上昇トレンドは続くものと推測される。

### 上値目処

もし冒頭で述べた2008年と2011年の高値を結ぶレンジスタンスライン(図1、緑線。1月時点では1.39075ドル)を突破できれば、中長期ではレンジ上限と目される1.51440ドル(2009年11月高値)に向けた上伸の道が開かれると見る。その際、サイクル面からも20カ月サイクルがライトトランスレーションで終了していれば、上値余地拡大との見方を支える材料となるだろう。

図3: ユーロ/ドル 日足(1/29終了時点)



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

それ以外の主な上値の目処としては、以下の水準が挙げられる。

- ◆1.42563ドル(2011年高値1.49400ドル～2012年安値1.20430ドルの下げ幅76.4%戻し)
- ◆1.42820ドル(2010年11月高値)
- ◆1.47190ドル(2008年12月高値)
- ◆1.50000ドルの節目

### 下値目処

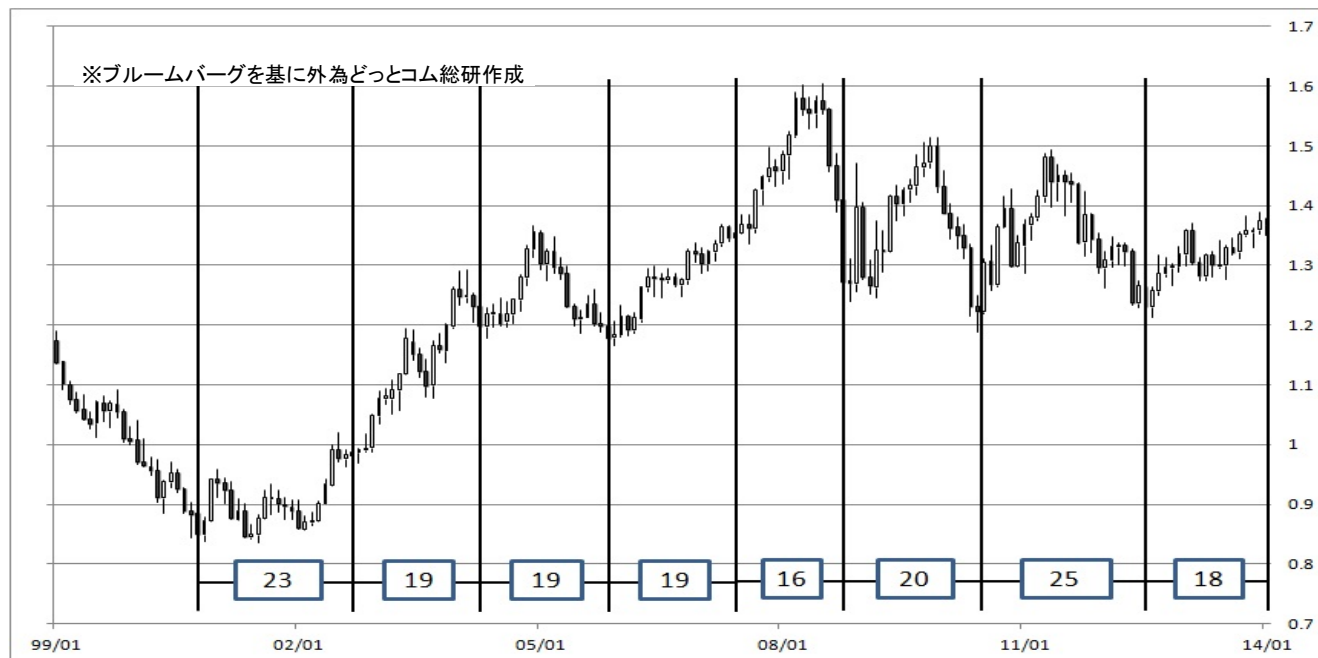
これまでは上昇トレンド継続の公算から、上方向を中心に見てきた。もし下値を意識する局面が来るのならば、それは、前述の200線のエンベロープ1.5%(図3。1/29時点では1.31720ドル)や、2012年7月と2013年7月の安値を結ぶサポートライン(図4のラインB。1.31708ドル)を割り

込んだ時であろう。この場合は1年半以上続いた上昇トレンド終了の可能性から、下値を試す機運が高まると見る。

下値を見ると、2013年7月安値(1.27550ドル)や2012年11月安値(1.26620ドル)など1.26～1.27ドルに過去の安値が複数あり、支持帯となっている。この辺りの下抜けは容易ではないと見るが、もし割ると2010年安値(1.18770ドル)に向けた一段安が見えてくる。そして、この辺りで下げ止まらないようだと、5年以上続いたもみ合いを下抜ける事となり、長期下落トレンドに入る事が予想される。

その他の下値目処として、以下の水準が挙げられる。

図4:ユーロ/ドル 月足サイクル(1/24終了時点)



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

- ◆1.33720ドル(1/29終了時点での、200日移動平均線)
- ◆1.32139ドル(同、18ヵ月移動平均線)
- ◆1.26620ドル(2012年11月安値)
- ◆1.20430ドル(2012年7月安値)
- ◆1.16400ドル(2005年11月安値)

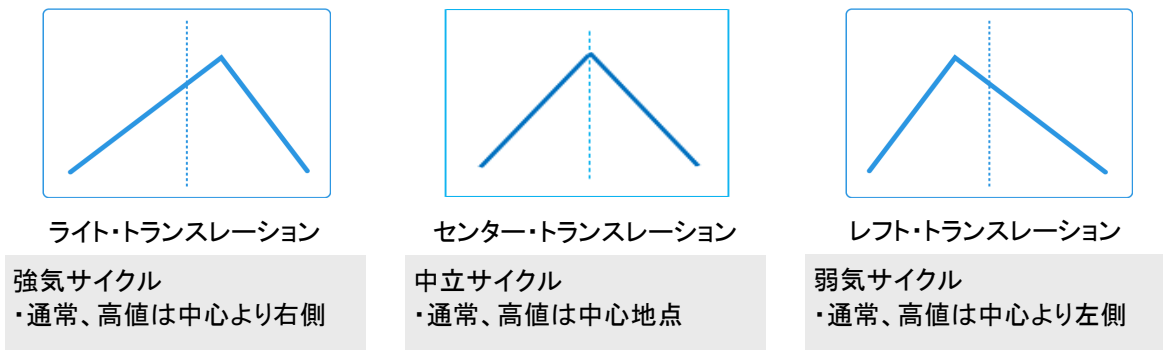
と見る。もっとも、長期的にはレンジを形成しているとはいえ、その幅は3000ポイントを越える大きなものである事を考えると、目先はトレンドが見えた方につくのが賢明であろう。

**まとめ**

足下の相場は2013年7月と11月の安値を結ぶサポートラインを下抜けたとはいえ、2012年安値を起点とするサポートラインを始め、200日線のエンベロープ1.5%、更には日柄面で上向きのサインが出ており、上昇トレンドは継続していると考えられる。ただ、日柄面からは年前半～半ばにかけて20ヵ月サイクルの応答月が重なるため、レジスタンスライン突破は次のサイクルに持ち越される事も考えられる。

一方で2012年年安値を起点とするサポートラインを下抜けるようだと、相場は下値を試しやすい

図5: 主なサイクルの形



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。